

〈令和5年度 全国学力学習状況調査について〉

児童の学力や学習状況の実態把握及び教育指導の改善を目的として、今年度4月に全国学力学習状況調査を6年生にて実施いたしました。今年度は国語・算数の調査を行い、結果・分析がまとまりましたので、御報告いたします。

【国語】

- 全体として全国を下回っている。
- 「読むこと・聞くこと」の領域については平均以上となっており、力がついてきている。
- 「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」の領域では、全国の平均を下回っている。
- 記述式の問題では、無回答が多く見られた。

【算数】

- 全体として全国の平均を下回っている。
- 「データの活用」の領域では、平均以上となっており、力がついてきている。
- 「数と計算」の領域では、全国の平均を下回っており、全国で正答率が高い問題に関しても誤答が多いことから、基礎基本と問いの理解力に課題が見られる。
- 「図形」の領域では、全国の平均を下回っている。
- 記述式の問題では無回答が多く見られた。

【児童質問紙】

- 児童は話し合い活動に前向きに取り組み、その中で考えを深めたり広げたりすることができている。
- 読書を好む児童の割合が多い。また、国語の学習が好きと答えた児童は全国平均よりも多い。
- 算数の学習に対して前向きに取り組んでいる児童は全国平均よりも少ない。また、算数の学習に対する理解度に大きな開きが見られる。
- 課題解決に向けて自分で考えて取り組む児童の学力は高い。
- 家庭において、計画を立てながら学習に取り組んでいる児童の割合が全国平均よりも低い。また、1日あたりの学習時間も全国平均よりも低い。これらは学力との相関関係が見られる。

【まとめ】

- ①国語、算数とも全国平均を上回る項目があり、学習の成果となって表れていると考えられる。
- ②全国平均を下回る項目が多く、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等へとつなげていく必要があると考えられる。
- ③問題文が長くなると、問題把握を十分にできていないということが考えられる。

【学力向上への手立て】

- 基礎基本の定着
 - ・学習タイムを生かし、基礎基本を身に付けます。(漢字の読み書き・計算力)
 - ・読書活動の充実を図り、読む力を育成します。
 - ・学習支援を丁寧に行います。
 - ・家庭学習の充実を図ります。
- 「書く」力の向上
 - ・「書く」学習の学年の系統性を意識して授業を行います。
 - ・教育活動全体の中で自分の考えや思いを書いて表現する機会をつくります。

○思考力・判断力・表現力を育む魅力的でわかりやすい授業の実践

- ・自分で考える時間や話し合いの場を工夫し、充実させていきます。
- ・算数科では、毎時間の問題把握を丁寧に行います。
- ・校内研究において各教科での仮説や手立て等について検証し、児童の実態に合ったよりよい授業を展開していきます。また、教職員の研修を充実させ授業力向上に力を入れます。

今回の結果をよりよい教育活動へと生かしてまいります。また、家庭学習と学校教育の連携をさらに深めていきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力のほど、よろしくお願い致します。